

地域オープンスペース活用促進プラットフォームPJ（豊洲スマートシティ連絡会）

■都市課題

- ・地域への愛着とつながりの不足
- ・空地の利活用が乏しく、ポテンシャルが活かされていない

■解決方策

未活用空地をデジタルプラットフォームにより一元的に管理・運用し、空間の有効活用と地域の新たな交流機会を創出。デジタル技術を用いた地域参加ワークショップやイベント集客支援、データ分析による効果検証を一体で行う。

■KPI

オープンスペース活用・地域参加の拡大
 →にぎわい創出・満足度の向上
 →シビックプライドの醸成、共創によるまちの活性化（活用アイデア数、イベント掲載数・開催回数等）

■実証実験の概要・目的

オープンスペース活用促進プラットフォームの各フェーズにおいて、以下の問いを設定し仮説検証を行う。

- 【①地域で考える】豊洲エリアで必要とされているものは何か？
- 【②場の利用を計画する】オープンスペースの利活用が促進されるには？
- 【③参加者を集める】イベント参加を広げ、エリアのにぎわいをもたらすことができるか？
- 【④参加を支援する】来場者体験を高め、来場者満足度を向上させることができるか？
- 【⑤分析する】継続的な改善に向けて、イベントの成果を正確に把握するには？



↑構築したオープンスペース活用促進PFのトップページ
 ワークショップアイデアの一例→

| タイトル | 場所 | 内容 | 期待効果 |
|----------------------|--|-------------------------------|----------------|
| 水上ににぎわいを生み出すスポーツイベント | 水辺 | 陸上の活用は進んでいるが、水上を使えたら可能性が広がるため | 豊洲オリジナルの賑わい活性化 |
| イメージ | ・水上スポーツイベント+陸上でのイベント ・(ビアフェス、音楽ライブ、フードフェス) ・モルックやボッチャなど気軽に参加できるスポーツも | | |

■実証実験の内容

各フェーズごとに開発・実証実験を実施、中間結果は次の取り組みに反映、改善しながら実施。 <ターゲット> イベント主催者・場の所有者・地域住民等

【①地域で考える】

地域全体で公開空地の利活用方法を考えるワークショップを開催。カードを用いた意見の活性化、XRを使った現地イメージの共有、生成AIによる意見の集約と可視化などの工夫を行った。共創プラットフォームを用いて、参加者以外も内容の共有とコメントができるようにした。

【②場の利用を計画する】

場の所有者等へのヒアリングを行った上で、利用希望者が場所と条件を検索、利用申し込みまで一気通貫で実施できる公開空地プラットフォームを作成。

【③-1 参加者を集める】

エリア全体の活性化と再来訪の促進を目指して、地域ステークホルダーとの連携のもと、イベントマップにイベント情報を多数掲載。

【③-2 参加者を集める】

LINEアカウントのPUSH通知、サイネージへの掲出やSNSでの告知・配信を実施。実装に向けた効果分析と課題抽出を実施。

【④当日の参加を支援する】

デジタルでの事前予約申し込み、デジタルアンケート配信等を実施。

【⑤分析をする】

広告配信効果分析、人流分析等により上記施策の効果検証を実施。

■実証実験で得られた成果・知見

- ・年度実証実験のKPIは概ね達成。
- ・イベント情報発信の効果分析については、当初KPIを大幅に上回る反応の結果、および今後の取り組みの比較材料となりうるデータが得られ、効果の大きさがうかがえた。
- ・ワークショップやイベントでのアンケートから、本PJの取り組みで地域の愛着度が増すと約9割が回答、都市課題に対する効果が確認された。
- ・ビーコン活用手法など実装に向けての課題がいくつか明確になった。
- ・ヒアリングを通じて、プラットフォームの認知拡大、場の利用者との円滑なコミュニケーションが必要であることが判明した。

■今後の予定

- ・構築したプラットフォームの実証運用を通じてシステムのブラッシュアップを行うとともに認知拡大施策を推進していく。

| | R8年度 | R9年度 | R10年度 | R11以降 |
|--|-----------|------|---------|-------|
| | サービスの改善検討 | | 他サービス連携 | |
| | 実証実施 | 本格実装 | | |
| | 効果検証 | | | |